

# e-dream-s 通信

No.59 発行：2005年9月11日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

## 目次

- |   |       |       |
|---|-------|-------|
| 1. やりたい気持ち・やれない理屈                         | 辻莊一   | p. 2  |
| 2. 夏から秋へ：多彩な Japan を求めて                   | 井川好二  | p. 4  |
| 3. 4期目の就任にあたって                            | 中川房代  | p. 12 |
| 4. Dong Seng and Hyon Nym (ECAP2005 を終えて) | 藤澤俊之  | p.13  |
| 5. 夏の記憶                                   | 相澤恵理子 | p. 15 |
| 6. ECAP2005 アンケート結果報告                     |       | p.16  |
| 7. 理事就任にあたって                              | 山田昌子  | p.20  |
| 8. イー・ドリームズ第3期の理事に再任されて                   | 飯田佐恵  | p.21  |
| 9. 理事に就任して                                | 藤澤俊之  | p.21  |
| 10. 理事就任にあたって                             | 塚本美紀  | p.22  |
|   | 辻岡尚子  |       |
|   | 岡田かおる |       |
| 11. e-dream-s 総会・パーティに参加して                | 田村尚美  | p.23  |
| 12. 報告                                    |       | p. 23 |

## やりたい気持ち・やれない理屈

代表理事

辻莊一

2005年2月のe-dream-s通信に「ECAP 2005」というタイトルで書いたエッセイで、

「韓流ブームという多分に表面的商業的で日本からの一方通行的な流れを、本当に意義のある成果につなげていくには、ブームの一方で長期的で展望のある相互交流が必要なのだが、今年3回目となるECAPは、まさにその役割を担うものだといえる。ACROSS/e-dream-sと韓国との付き合いは韓流ブームの「八」の字もない1987年のアジアツアー第1回の韓国訪問に端を発し、韓国との表面的ではない、より深い絆を求めて2003年からECAPが始まった。韓流ブームで私たちの意図は注目されやすく、理解されやすくなっている。時代がやっと私たちに追いつきつつあるとも言えるのである。」

と書いた。ECAPの意義について簡潔かつポイントを突いた表現で書けている。しかも前向き。いやー我ながら立派な文章だ。なんて自慢するのがこの文章の目的ではない。書きたいのは「新しく物事を始めるには理由があるが、理由の数で言えばやらない方がいい理由のほうが必ず多い」ってことなんである。

みなさんご存知かどうか分からないが、私は何かをする時に結構ものを考えるたちである。特になにか新しいことを始める時はよく考えてから始める。下調べや準備も結構する。その時にいつも思うのだが、そのことを始める理由はせいぜい片手で数えられるくらいしか思いつかないけど、やらない方がいい理由はいくらでも思いつくんだなあ。

例えばウォーキングを始めようと考えたとする。ウォーキングを始める理由は「体重を減らす」とか「筋力が衰えないように」とか、「心肺機能を高める」とか、とかそういうところだ。でも、やらない方がいい理由としては「ちょっとぐらいやっても体重は減らないし」「心肺機能を高めてどうする」「そんな時間は取れない」「夏は暑いし冬は寒い」「どうせ続かない」「ウォーキング用の服がない、靴がない」「カッコ悪い」「そんな時間がとれるなら\*\*\*したほうがよい」などなどいくらでも出てくる。

だれでもやっているウォーキングでさえこんな調子なんだから、誰もやってないことを始めようとするれば、やる理由は3個、やるべきでない理由は25個なんてことになるのは当たり前だ。組織的にも財政的にもバックアップなしで草の根運動として日韓の教師が協働してなにか新しいことをする ECAP なんてその最たるもので、上記のような意義があることを前提としても、やるべきでない理由はいくらでもみつかる。金がない、助けてくれる組織がない、みんな忙しくて時間がない、相手と同じだけのやる気をもっているか分からない。いくらでも出てくる。実際 ECAP 2005 の準備期間中にも竹島（独島）や靖国神社の問題もあったし反日デモもあった。また、直前まで e-mail でのコミュニケーションがスムーズに行かない、航空券が取れていないなどの実務上での心配事もあった。実際、中止を検討した時期もあったし、中止という判断もあり得たのである。

結局実施までこぎ着けられたのは、上記の様な ECAP の意義がベースとしてあったことに加えて、e-dream-s / ACROSS にそれだけのエネルギーがあったからだと考えている。

何か新しいことを始めるときに理屈だけで勝負すれば、反対する側が勝つに決まっている。もちろん新しいことを始める時にはそれなりの理由が絶対必要であるし、新しいことなら何でもやれということではないが、必ずしも反対する側が正しいということにもならない。むしろ硬直化した組織や会社や国が、新しいことを拒んで徐々に活力を失い衰えてゆくなんてのはよく聞く話だ。

こまごました理屈を超えて新しいことを始めるために必要な活性化エネルギーを持っているかどうかは、人間ならば生き方の問題、組織なら組織文化の問題である。

ECAP 2005 が実施され、まさに大成功に終わったことが嬉しいのはもちろんだが、理屈を乗り越えて新しいことを始められるグループの一員であることが特に嬉しい今日この頃であります。

## 夏から秋へ：多彩な Japan を求めて

井川好二

長崎県の五島<sup>1</sup>へ行ったのは、盆を過ぎた八月の仕舞い際。まだまだ暑い盛りに、西の離島へ渡り、巡礼のようにいくつものキリシタン天主堂<sup>2</sup>を訪れたり、光り溢れる西海<sup>3</sup>を、漁船でクルージングをしたり、新鮮な食材をあれこれ味わったりした。汗をかきながら、驟雨に見舞われたりしながらの旅だったが、なかなか印象に残る旅になった。



頭ヶ島教会 (Photo by Koji Igawa)

この五島行は、島尾敏雄<sup>4</sup>の云う、「多様な日本」を探すための旅だったのかも知れない。つまり、明治以降の、画一的な日本が持つ、「みんな一色に塗りつぶ

---

<sup>1</sup>ごとう れっとう〔ゴタウレットウ〕【五島列島】長崎県西部、東シナ海上にある列島。福江島・久賀島・奈留島・若松島・中通(なかどおり)島など約二〇〇の島からなり、リアス式海岸が発達。漁業が盛ん。[大辞泉 提供：JapanKnowledge]

<sup>2</sup>てんしゅ どう【天主堂】天主教の教会堂。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>3</sup>さいかい こくりつこうえん【西海国立公園】長崎県の五島列島・平戸島・九十九島くじゅうくしまを含む国立公園。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>4</sup>島尾敏雄(1992)「新編・琉球弧の視点から」東京：朝日文庫。

されてしまうという息づまるような何か」から抜け出すために、「日本の多様性」を見つける旅の一環であったように思える。島尾の云う画一性による重圧、その圧迫感は、よく分かる気がする。

・・・わたしはそこからどうしても抜け出したいという気持ちがおさえられないのです。しかし、いくら抜け出したくても抜け出すことはできないでしょう。外国旅行をしてもだめだと思えますし、またたとえこの日本を逃れてよその国に亡命しても、やはり日本の枠の中から逃れることはできないのではないかと。しかし抜け出したい。さて、この抜け出せない日本からどうしても抜け出そうとするなら、日本にいながら日本の多様性というものを見つけていくより仕方がないのではないかと。(p. 15)

今回の五島行きは、「日本の多様性」、言い換えれば、「画一性に支配されない」、「多彩な自分」を探すオデッセイ<sup>5</sup>の、1ページだったのではないかと、この短い旅から帰って、つくづく思うのである。当たり前のようだが、日本の多様性を、海外ではなく、日本に求める。なお、この一連のジャパン・ツアーの第一回は、昨年12月に行った下関行であったと、勝手に決め込んでいるのだが、その検討はここではおく。

白木のカウンターの上に飾られたトルコキキョウ<sup>6</sup>が、秋の空気をよく伝えている。込み合ってくるには、まだ時間が早い。この店へ時々やって来て、カウンターのこの席に座ってネクタイを緩めるのも、私の日常の中での「自分探し」なのかも知れない。そこへ、淡い藤鼠のひとえ<sup>7</sup>に、塩瀬<sup>8</sup>の帯の女将が、「お待ち

---

<sup>5</sup> Odyssey /n/ pl. odysseys. 1. An extended adventurous voyage or trip. 2. An intellectual or spiritual quest: \*an odyssey of discovery. [After the Odyssey a Homeric epic recounting the wanderings of Odysseus after the fall of Troy, from Greek, Odusseia, from Odusseus, Odysseus.] [AHD3rd]

<sup>6</sup> 「トルコキキョウ」は、北アメリカ原産のリンドウ科の花。ずっと伸びた茎先に愛らしいつぼみをつけ、まるで妖精のドレスのような繊細な花を咲かせます。楚々とした一重咲き、可憐な八重咲き、そして多様な花色は見るだけで心を和ませる優しさにあふれています。花言葉は「優美」。清らかさのなかにも、凜とした気品を感じさせる秋の花です。

<http://www.hibiyakadan.com/special/sixyun/index2.jhtml>

<sup>7</sup> ひとえ もの【単物】裏をつけない、一重の和服。初夏から初秋へかけて着る。ひとえぎぬ。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>8</sup> しおぜ【塩瀬】羽二重風厚地の織物で、経糸(たていと)を密にして太い緯糸(よこいと)を包み、直線状の畝を出したもの。多く帯地とする。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

ちどうさま。」

「松茸どす」

「おお、松茸！今年は初めてや、この香り」

夏から秋への移ろいは、空の色にも雲の形にも感じられ、残暑に辟易する心と身体に心地良いものだが、特に嬉しいものは、秋の食材の登場。中でも、シーズンはじめに、松茸を食べられる幸せは、なにものにも代え難い。

「匂い松茸、味しめじ」と言う通り、松茸は匂いが身上。その香りたつ松茸の炭火で焙ったものを、裏白を敷いた益子焼<sup>9</sup>の平手鉢に盛って、そばに酢橘<sup>10</sup>が添えてある。だから、眼にも美味しい。松茸を産する地方はもともと限られていて、それを食する文化も畿内のものと云える。

「甲賀<sup>11</sup>の親戚が、今朝採れたんを届けてくれましてん。センセに食べてもらお思て」

「嬉し！」

「備長炭<sup>12</sup>で焼きましたん。どうぞ」

「う～ん、土瓶蒸し<sup>13</sup>も好きやけど、やっぱり焼松茸！」

---

<sup>9</sup> ましこ やき【益子焼】栃木県の益子町から産出する陶器。1853年（嘉永6）大塚啓三郎が大津沢に陶土を発見、創窯したのに始まる。当初は水甕・片口・播鉢すりばちなどを製したが、次いで土瓶・火鉢・茶器・花瓶などを産出。近年は民芸風をもって知られる。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>10</sup> す だち【酸橘】ミカン科ユズ類の常緑低木。果実はユズより小形、緑色のうちに独特の香気と酸味を賞味する。香料料として賞用。主に徳島県で栽培。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>11</sup> 甲賀（町）滋賀県南東部、甲賀郡にある町。1955年（昭和30）大原、油日（あぶらひ）、佐山の3村が合併して町制施行。JR草津線が通じる。町名は古代以来の郡名に由来する。（C）小学館

<sup>12</sup> びんちょう ずみ【備長炭】姥目樫（うばめがし）を材料として製した熊野産の良質の木炭。元禄（1688～1704）年間から紀伊国田辺の備中屋（びっちゅうや）長左衛門が販売。びんちょう。びんちょうたん。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>13</sup> どびん むし【土瓶蒸し】松茸・魚・鶏肉・野菜などを土瓶に入れ、吸い物汁を加えて蒸すか煮ること。また、その料理。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]



<http://www.miyamotoya.jp/soko.html>

「備長炭の原料は、『ウバメガシ<sup>14</sup>』って木やねんけど、和歌山の梶木やて」  
「へえ、さすが、センセの蘊蓄どすな」  
「まあ、お聞き。その和歌山のウバメガシが、他には全然ないのに、五島列島の奈良尾<sup>15</sup>ちゅう地区にだけ、自生してるんや」  
「へえ、どうしてどすか？」  
「江戸時代に、和歌山から、漁師が五島へ鯛釣りを教えに行ったそうや」  
「はあ、それでその漁師はんが、故郷の木を持っていきはった」  
「まあ、そういうこと。けど、漁師の世界は、海の世界。広がり方が違う」  
「ほんに。海は世界へ広がってますよって。自由の香りがします」

この農業社会ではない、漁業社会としての日本と云うあたりにも、「日本の多様

<sup>14</sup> うばめ がし【姥目榿】ブナ科の常緑高木。高さ8~9メートルに達し、暖地の山地や海岸に生える。幹は直立しない。葉は小形で硬い。雌雄同株で、5月頃黄褐色の小花をつける。果実はドングリ状で、渋味少なく食用となる。材は堅く、艦臍<sup>るへそ</sup>などとし、火力の強い木炭に製する。若芽はタンニンに富み、付子<sup>ふし</sup>の代用。うまめがし。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>15</sup> 奈良尾(町)長崎県南松浦(みなみまつうら)郡にある町。五島(ごとう)列島中通(なかどおり)島の南東端に位置する。1943年(昭和18)町制施行。長崎港からフェリーが就航。西日本随一の大型巻網漁業の基地で、奈良尾船団を構成しているのは8企業13統(1996)で、約800人の漁船員が雇用されている。このうち約73%が町外居住者で占められる。原因は、町内人口が都市志向の傾向を示すため、地元企業への就業希望が少なく、町内は過疎化の傾向にある。奈良尾船団の労働力は上五島(かみごとう)一円のキリシタン集落の子弟によって支えられているといわれ、浜串(はまくし)の岬にはマリア像がそびえ立ち、船団の出漁を見守っている。巻網漁業のほかプリの定置網漁業(漁協経営)が行われている。背後の遠見番(とおみばん)岳は江戸時代に外国船見張番の置かれた所。奈良尾神社の樹齢600年のアコウは国指定天然記念物。佐尾鼻(さおばな)付近にオニヘゴの自生地がある。人口3332。(C)小学館

性」を語る鍵がある。

さて、話を松茸に戻す。食いしん坊の吉田健一<sup>16</sup>に云わせると、松茸の一番旨い食べ方は、バター炒めだそうで、関西の知り合いから、鎌倉の自宅にどっさり届いた松茸の料理法について、こう語る。

「・・・旨い松茸の食べ方はフライパンでバターで炒めることであると思われて、これに相当する料理法に昔どういふのがあったのか解らないがバターは松茸の香りと味を高めるだけのようでこれ以上の松茸の食べ方を知らない」(p. 134)

日頃は大いに参照する吉田ではあるが、松茸の「バター炒め」などと云われると、やや鼻白む。しかし、吉田が「バター」と云う書き方にこだわっている辺り、本物のバターに引き立てられた松茸の旨味が、にじみ出ているようにも思うのだが。これも多彩さ。



粉引<sup>17</sup>片口<sup>18</sup>

白い片口<sup>19</sup>に入れた吉野の地酒の「花巴<sup>20</sup>」を飲む。冷やが好きなのは相変わらずだが、冷たくした「花巴」は、深山の湧き冷水の趣。きっぱりとした秋の空

<sup>16</sup> 吉田健一(1972)「私の食物誌」東京：中央公論社(『関西の松茸』pp. 134-135)

<sup>17</sup> こひき【粉引】朝鮮の李朝の陶器。白い釉(うわぐすり)が粉を引いたようになっている。茶碗、徳利などがある。粉吹き。(C)小学館

<sup>18</sup> <http://www.holiday-land.jp/katakuchi/06/index.html>

<sup>19</sup> かた くち【片口】一方だけに注ぎ口のある器。特に長柄の銚子にいう。

<sup>20</sup> 清酒「花巴」醸造元、合名会社「御芳野商店」は明治45年の創業以来、大峯の山々に囲まれた奈良吉野で清酒一筋に花巴(はなともえ)を醸造してまいりました。現在も昔ながらの手づくりによる酒造りを続けている小さな地酒蔵元です。一度にたくさんは造れませんが、それゆえ丹精込めた酒造りに妥協はいたしません。お客様にもっともおいしくお酒を味わっていただく為に、奈良吉野から地酒花巴を蔵元直送しております。 <http://www.hanatomo.com/> より。



気を取っている。

「五島では、美味しいもん、たんと頂きはりました？」

「そやなあ・・・素材は良かったんやけど・・・」

「けど、なんどす？」

「料理は、イマイチ」

五島で食して、旨いと思ったのは、まず、鯛、ミズイカ<sup>21</sup>、ヨコワ<sup>22</sup>など。つまり、五島灘や東シナ海で獲れたばかりで活きのいい海産物。日本随一の豊かな漁場からの恵みを、福江の割烹<sup>23</sup>でいただいた。ここは、さまざまな文人墨客が来店したことで有名。



「味彩」 <http://www4.ocn.ne.jp/~goto-sea/ajisai/ryouri/ryouri.html> より。

<sup>21</sup> みず いか【水鳥賊】アオリイカの別称。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>22</sup> クロマグロ黒鮪 bluefin tuna/ Thunnus thynnus 硬骨魚綱スズキ目サバ科に属する海水魚。ホンマグロともよばれる。マグロ類のなかではもっとも大形で、全長3メートル、体重400キロに達する。胸びれが比較的短く、眼径が小さい。体の背部は暗青色、腹部は銀白色を呈する。若魚では体側に十数条の淡色横帯があり、ヨコワとよばれる。(C)小学館

<sup>23</sup> 「かろう」 <http://www.h5.dion.ne.jp/~kanou/index.html> 参照。

次に、鯨。「百尋(ひゃくひろ)<sup>24</sup>」、「さえずり<sup>25</sup>」、「うね<sup>26</sup>」と呼ばれる鯨の部位の刺身。上五島の有川<sup>27</sup>の料理屋<sup>28</sup>で食したのだが、伝統的な「鯨食文化」を受け継ぐ土地柄ゆえに、調査捕鯨<sup>29</sup>の鯨肉を優先的に確保しているのだろう。

そして、五島牛<sup>30</sup>。元は、役牛として飼育されていた。最近、潮風に吹かれて塩分の多い牧草を食べて育った牛肉として、ブランド化が進んでいる。福江のステーキハウス<sup>31</sup>でヒレスステーキを食べたのだが、肉の固さが少し気になったが、それも個性の範囲と考えられる。味は申し分ない。しかし、ポイントは料



24 ひゃくひろ(百尋)2,500円 小腸の塩茹です。独特の食感を持ち地元では特に好まれます。昔は正月のお料理に欠かせないものでした。(味彩)



25 さえずり 1,500円 舌の塩茹です。ベーコンに近い食感を持ち、ジューシーな鯨独特の旨みを味わえます。(味彩)



26 うね(刺身) 2,000円 皮と脂身・身と一緒に食べられる、地元で一番人気の部位です。(味彩)

<sup>27</sup> 有川(町)長崎県西部、南松浦郡にある町。五島(ごとう)列島、中通(なかどおり)島の東半分を占める。1932年(昭和7)町制施行。中心集落の有川は有川湾に臨み、五島の北の玄関口にあたり、佐世保(させぼ)港からフェリーが通じている。また南部の鯛之浦(たいのうら)には福江港への定期便がある。町の東端、頭(かしら)ヶ島には81年上(かみ)五島空港が開かれ、長崎空港ならびに福岡空港と結んでいる。有川港は旧藩時代、西海(さいかい)捕鯨の基地として繁栄し、港口の鯨見(くじらみ)山には鯨供養碑がある。現在、地元での捕鯨は行われていないが、南氷洋捕鯨の乗組員を多く出して、西海捕鯨基地の伝統を保っている。地元漁業は湾内の大型定置網を主体としており、ブリの水揚げが大きい。鯛之浦湾、神之浦湾には真珠養殖もみられる。人口7564。(C)小学館

<sup>28</sup> 「味彩」<http://www4.ocn.ne.jp/~goto-sea/ajisai/>

<sup>29</sup> ちょうさ ほげい【調査捕鯨】クジラの生息数・分布などに関する科学的調査のための非商業的な捕鯨。国際捕鯨条約に基づく。1987~88年の漁期から開始。国際捕鯨委員会[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>30</sup> ごとう うし【五島牛】長崎県五島列島および平戸島に産する牛。古くは朝鮮牛を、その後、鳥取産の牛を種牛としたために、その体型などは一定しない。田畑をたがやすのに使役される。(C)小学館

<sup>31</sup> 「望月」<http://www1.megax.ne.jp/gotokankou/gurume/gurume2.htm>

理。食材が良い分もつたいない気もする。

「センセ、そんなこと云いはったらあきまへんえ」

「なんで？」

「そうかて、材料が良かったら、それでよろしいやないか」

「ええ？」

「材料も料理も、どっちもやないとアカンやて、厚かましいのと違います」

「・・・」

「料理は、うちへ来て楽しんででもろたら、エエのどす」

「・・・」

「新鮮な食材、そのせっかくの良さを楽しみはらんと」

「そやなあ。その通りや。こりゃ、ママに一本取られたわ」

そう云われて思い出せば、新魚目の民宿<sup>32</sup>の朝食は旨かった。連れの、気難し屋のグルメが、旨い、旨いと、ご飯を3杯もお代わりした。朝から、テーブルに並びきらないほどの料理だったが、旨かったのはアオサ<sup>33</sup>の味噌汁と小鱈の塩焼き。新鮮な素材の良さは、すべてに勝るのか。「朝ごはんから、この国が見える」と云ったのは、向笠智恵子<sup>34</sup>だが、五島の朝ごはんに、豊かさに溢れた日本列島の広がり、**「多彩な日本」**の基盤の一つが見えている。

吉野の「花巴」を何回もお代わりして、すっかり酔っぱらった。酔っぱらってはいるが、頭は秋空のように晴れ渡っている。日本の多様性は、地方の見直しから。地方の良さの再発見が、日本の未来へ繋がっている。その良さがわかる自分が、多彩な自分なのである。

「センセ、今度は、私も連れてっておくれやす」

だから、RE-Discover JAPAN の時代なのである。(Saturday, September 10, 2005)

<sup>32</sup> ラ・メール・ヴィラ・魚竹 <http://www16.ocn.ne.jp/~uotake/>

<sup>33</sup> あおさ【石蓴】緑藻類の海藻。日本各地の干潮線の岩石に着生。葉状体は鮮緑色、透明で扁平。2層の細胞から成る。青海苔の代用とする。[広辞苑第五版図版付き]

<sup>34</sup> 向笠智恵子(2001)「日本の朝ごはん食材紀行」東京：新潮文庫。

## 4 期目の就任にあたって

中 川 房 代

8月27日に第6回定時会員総会を開催した。e-dream-s も設立から5年半経った。早いものである。

毎年、8月末の時期になると、総会や大阪府庁への提出書類の準備のために、以前の書類を紐解くことになる。日頃片づけや整理整頓が大の苦手な私だが、e-dream-s 関係の書類は、設立以前からのものも含めて、デジタルで事業年度&種類別にフォルダに保存(ポータブル HDD に)してあるので、探したり取り出したりは容易。これもコンピュータのお陰。

ふと見た書類、「e-dream-s 通信・創刊号」(2000年4月号)に、副代表理事就任にあたって私はこう書いていた。

「NPO っていいかも？」(a dream) が、既に、ここに1つの現実となった。もうここまで来たら、後は思いきり前に進むだけ。「副代表理事」就任にあたって、今、そんな緊張感の中にいる。

こんなことしたいな、こんな風になったらいいな、こんな世の中にしたいな、と、一杯いっぱい、思いたい。それが、dreams を実現する第一歩だから。そして、それができるのが e-dream-s である——自他ともに、自信を持ってそう認められる実績をつくっていくのが私の役目、そう思って頑張ります。よろしくお願いします。

この5年半、e-dream-s は様々な事業を行い、実績を積み上げてきた。大きな成果を手にし、同時に新たな事業計画や財政面での課題も抱えている。それらを打破するために力を注ぎたい。私たちの「夢」への熱い思いを具体的な言葉にし、それを展開できる事業としていくために力を尽くしたい。

新役員の皆さんと協力して、夢の実現のために頑張ります。どうぞよろしくお願いします。

**Dong Seng and Hyon Nym**  
**( ECAP 2005 を終えて )**

藤澤 俊之

「この掛け軸は、中央高校の美術の先生が、韓国と日本の先生方が強い絆で結ばれるようにと描いてくださった、虹の掛け軸でございます。」

中央高校の茶道部の生徒が、韓国の先生方のために茶会を開いてくれた際に、茶会の席で、説明してくれた言葉である。

今年の ECAP 2005 は、8月5日(金)～7日(日)にかけて大阪で、韓国から10名の先生を招いて開催された。日本側からも30名を超える参加者があり盛会となった。期間中企画されたワークショップやフィールドワークだけでなく、ホームステイや期間後に実施された、奈良、京都ツアーにおいても、交流を深めることができたと思う。茶会はその中でも、日本文化紹介として、これも中央高校の生徒が行ってくれた、太鼓パフォーマンスとともに、韓国の先生方に非常に好評であったプログラムである。

特に今回のプログラムの中心であった、日韓の英語教育に関する話しあいは、両国の英語教育の相違点や似通っている点を確認し、今後どのように交流を深めていけばよいかということを考える良いスタートとなったと思う。大事なのは、今回は、あくまでもスタートを切ったということで、これからの付き合いというものが、長期的に見て今回のプログラムが成功であったかどうかを決定づけるのだと考えている。

今回のプログラム中に、私は、二人の先生に自宅に泊まっていた。Lee Okkeun 先生と Lee Young Kap 先生のお二人である。Okkeun 先生は、少し年配の先生で、Yooung Kap 先生は、すらりとした背の高い、若手の先生で、ECAP への参加は昨年韓国に引き続き二度目である。二人は、文字通り酒豪で、プログラムが終わってから、帰ってきてからも、近くの居酒屋で、キムチや鉄火巻きを肴に、夜遅くまで英語教育の問題などについて、熱心に話しあった。最後の日には、Sung Homan 先生(韓国側の写真担当の先生)も泊まれ、狭い我が家は大賑わいとなり、軍隊の話などもしてくださり大いに盛り上がった。

その時に、先生方が教えてくれた言葉が、“Dong Seng と Hyong Nym”である、「トンセン」は、日本語では、「弟」、「ヒョンニム」は、「兄」という意味のようで、私のことを、Okkeun 先生は“Dong Seng”と呼び、Young Kap 先生は“Hyon Nym”と呼び、その逆で、私も彼らを同じように呼ぶというようなことであった。

メインプログラムを終えた後の、8月8日、9日の奈良、京都観光ツアーも、旅館滞在も含め楽しんでもらえたようで、無事プログラムを終えることができた。

現在の日韓を取り巻く状況は、韓流ブーム等は確かにあるが、必ずしも良好といえないと思う。こういう時期だからこそ、私たちのような交流、つまり草の根レベルでの交流が、意義を持つのではないだろうか。そんな中で、今回の ECAP 開催について、毎日新聞が記事に取り上げてくれたことも励みになった。

来年は、韓国での開催が予定されている。今後、“Dong Seng”、“Hyong Nym”と気軽に呼び合い、アジアの英語教育に少しでも寄与できるような ECAP に発展していくことを、心から願っている。



大阪市立中央高校でのお茶会、奥中央が「虹の掛け軸」。



## 夏の記憶

相澤恵理子

アクロス会員になってから4年目になろうとしている。案内はがきを手的一步を踏み出したころがつい昨日のことも思えるし、はるか昔のこともようにも思う。その日を境に、私の生活は明らかに変化した。とりわけ中でも顕著なのは、夏の記憶である。

とにかくあつい。夏なのだから暑いのは当たり前だが、暑いだけでなく、「熱い」のである。そんな「熱い」夏を、今年は大阪で体験することができた。

初めて参加した ECAP2003 から数えて、今年の日韓交流3年目。初めて、韓国の先生方を日本へお招きすることとなる。私自身も、いつも受け入れていただくばかりで、受け入れを体験するのは初めてだ。しかも、事務局として企画運営にも関わる。もちろん初めての経験。今から思えば、反省点もたくさんあるが、やはり「熱く」意義のある夏をすごすことができたのは、本当に感謝なことである。

### お茶会



### 太鼓のパフォーマンス



私の勤務する中央高校が会場となり、生徒たちも和太鼓や茶道のよき発表の機会を持たせていただいた。短いながらも韓国の先生方とも交流の場を持つことができ、生徒たちには、本当に良い経験となったようだ。また、中央高校の先生方には、いろいろな面でお手伝いいただき、この場を借りてお礼申し上げたい。

来年も是非、「熱い」夏を体験したい。そんな気持ちにさせる夏の記憶が、今年もまたひとつ増えた。

## ECAP 2005 アンケート結果報告

集計者：相澤恵理子

\* 5(excellent)-1(poor)

### 1) Group Discussion 5(10名) 4(10名) 3(3名) 2(1名) 1(0)

- Difficult Topic but could useful ideas.
- It was really fruitful to discuss all the situations in both countries and set into.
- It was quite effective to hear the ideas and thoughts and know the attitude toward teaching.
- We could share a lot of professional insights. So I want to keep in touch with my teammates.
- Korean teachers prepared so much for group discussion, but I myself couldn't help other members.
- I thought we needed more time for discussion, but I think I was able to gain a lot of information from the talk.
- Every member of my group introduced his or her own activities in class, and we could exchange information one another.
- It was nice to exchange ideas with teachers from Japan. Group 2 had a wonderful discussion and we managed to put the ideas all together.
- It was good, but we didn't have enough time for discussion, Sorry!
- We shared lots of ideas and problems between Korean and Japanese teachers. At first, I was nervous to give a presentation, but now I'm happy to have many kinds of topics given by other groups.
- I could get so many impressive questions and think about them, with Japanese teachers!  
I think we could get a lot more ideas than I could usually get among Korean teachers because Korean and Japanese educational environment is slightly different.
- Should've been more compact. Most of the presentation had too much information.
- Closing time of each group presentation was delayed.
- To give each group separate room would give better opportunity to prepare better.
- Thanks to the preparation of Mr. Haida and two Korean teachers. The level of our discussion is better than I had expected. However I regret my preparation was poor.
- I couldn't prepare for the group discussion. If I had know about the book I should read earlier, I could have finished reading it. It was very regrettable. Discussion itself was very good.



2) Culture Night 5(12名) 4(8名) 3(2名) 2(0) 1(0)

- It was great and very fruitful. Maybe too many things to enjoy all of them.
- I enjoyed the “story-telling” very much.
- They were very unique and made me think about the importance of traditional culture in one country. I’m really thankful of all the Japanese teachers.
- Not enough time. Two nights would be necessary.
- It was interesting to see the school life in Korean Middle School.
- Japan night was great. Especially I really liked Yukata and the story telling.
- We could exchange the culture. But it is regrettable we couldn’t dance.
- Performances of each group are very enjoyable, but I was sorry that we didn’t have enough time.
- Trying Yukata was a great experience. I’ll never forget that. And making fans was a brilliant idea as well. Thank you.
- Wish we had more time.
- Yukata is beautiful.
- We had little time to do culture night. It will better to make it longer.
- I enjoyed a lot, but the time table was too tight.

3) Lecture by Dr. Igawa 5(13名) 4(4名) 3(0) 2(0) 1(0)

- It was interesting and instructive.
- Effective lectures for both of Korean and Japanese teachers.
- He showed a role model to the English teachers.
- Many things to think over and various things to learn.
- Very helpful. English as the global language!
- I could know the difference between International language and Global language.
- He made me think about so many things. I really enjoyed and get so many ideas.
- I strongly agree with him when he said that English is not the language of the “native” people but the language of the global village and we have to find a way to overcome the problems we share as an English teacher in an EFL situation.
- The lecture of the professor Koji Igawa was very helpful and beneficial to all the English teachers joining the ECAP 2005. His lecture stimulated me to study English.
- Dr. Igawa introduced famous scholar’s difficult theory in simple understandable words. His talk is sometimes humorous and fun.
- I was impressed how fluent his English was. The lecture was fun and informative. He is the role model for me as an English teacher.
- He suggested an important issue, that is, “global language instead of international language.” I’d like to study and survey the various respects regarding “global vs. international English.”

4) Fieldwork in groups 5(9名) 4(7名) 3(1名) 2(0) 1(0)

- It was hot and rained but we had a great time!
- I loved the beautiful scenery of Osaka Castle.
- It was amazing! I cannot express.
- Very good chance to get to know each other.
- I enjoyed looking around Osaka with the Korean teachers.
- It was exciting and I could talk with Korean teachers.
- Interesting but too lot
- We experienced many things. Wonderful!!
- It was really fun touring around Osaka City. Korean teachers really enjoyed it.
- I was so happy to see our guests from Korea enjoy visiting famous places and take many pictures. I enjoyed it too, but the places we visited were very very crowded. We should have chosen less crowded place.
- We were such an academic group. Because we spent too much time on group discussion. We didn't have much time for fieldwork. But! Because of that we had the perfect group work result.
- Osaka Castle was very beautiful. I was surprised that Japan can preserve that kind of historical culture so well. Also I was shocked to read about Hideyoshi because he invaded Korean peninsula and destroyed almost Korean historical remains.

5) Hotel 5(4 名) 4(3 名) 3(2 名) 2(0) 1(0)

- Clean, cozy room with delicious breakfast.
- It was near and clean. The food was good and people were kind.
- Nice, cozy, comfortable.
- A little narrow, but not bad.
- Convenient. Because it's close to the station UEHONMACHI.
- It would be better if the room was large enough for 3~4 people to spent night together there.

5) Special Events by Chuo High School Students 5(21 名) 4(0) 3(0) 2(0) 1(0)

- Very good. Fantastic.
- Impressive and brilliant.
- Tea ceremony was good!!
- I was impressed by the Japanese drums!
- The performance of beating drums was excellent!
- To see the Japanese students must be a good experience for the Korean teachers.
- The tea ceremony and drum performance were thrilling.
- Thanks for all the students and teachers who made a lot of efforts for us.
- Wonderful. Glad to see young Japanese people inherit traditional culture.
- Tea ceremony reminded me of Japanese traditional style.
- Good for both Japanese and Korean teachers.
- I can't describe, because the performances were too wonderful!

- Students' performance was very impressive. Tea Ceremony made me calm down.
- I was deeply touched by the powerful performance of the Drum Club. Korean people have chango, but the beating drums like that is peculiar to Japan. Showing this kind of performance was a good idea.
- The Japanese drum Performance gave me the goose bumps!!! A nice culture experience. I'll never forget.
- Very impressive! Both tea ceremony and Japanese Drum performance. I appreciate their efforts. Maybe next time, too!

6) Home stay 5(8名) 4(0) 3(1名) 2(0) 1(0)

- Very good. Wonderful hospitality.
- Lance was kind and warmhearted,
- Satisfaction. Thank you.
- The host, Lance Burrows, made me very comfortable. He was very kind and warmhearted. I really appreciate his kindness.
- Thank you so much for the warm welcome. I had the most delicious Japanese breakfast this morning. Thank you for so much trouble.
- I was deeply impressed by the host's consideration and devoted attitudes.
- The host was very kind and the room was very clean. I could use computers which I liked very much.
- It was traditional Japanese style house. I was warmly welcomed by all the family. It would be a unique and nice experience to exist two culture in one house together.

7) Miscellaneous

- Thanks for your hospitality and sincerity.
- Thanks for your kindness and effort.
- Now that I understand why we try to communicate with non-native speakers of English, I'd like to be aggressive to join this kind of activity.

\* アンケートのご協力、ありがとうございました。

## 理事就任にあたって

山田昌子

2学期が始まり、私の勤務校では文化祭の準備・劇やパフォーマンスの練習に余念がありませんでした。困難校と言われ毎日大変ですが、文化祭の取り組みはちょっと異なる面が垣間みられます。文化祭は、9日(金)成功のうちに終わりましたが、「松健サンバ」あり、ストリートダンスやブレイクダンスあり、「シンデレラ」のような小演劇あり、歌あり踊りありのミュージカルあり、戦争の悲惨さを訴えたシリアスな演劇(50分)あり…、各ホームルームで工夫を凝らし取り組みました。皆さんには、ご経験から「それ位分かっている」と言われそうですが、ひとつの取り組みの中で、クラスの生徒がそれぞれ得意分野を生かしその役割を果たし、それぞれのピースをつなぎ合わせて、観客とのコミュニケーションを創造する、文化祭の取り組みはまさに「コラボレーション」です。私のクラスは2年生、学園ものに取り組みましたが、劇の終わりには、クラス全員がソプラノ・メゾソプラノ・アルトと分かれ、ハーモニーを奏で、"Oh, Happy Day"という歌でしめくりました。11月の海外研修旅行では、シンガポールでも歌う予定です。

e-dream-sの活動は、生徒たちの文化祭とは勿論異なりますが、メンバーの長所や得意分野を生かし、それぞれが作るピースをつなぎ合わせ、活動するという意味では、まさに「コラボレーション」だと思います。現在行っている最も大きな活動のひとつである、@aglanceの教育用写真サイトでは、写真撮影が好きだったり、得意だったりする人は自分で写真を撮りますが、「撮影はそれほどでも…」という人は、いい写真を撮影する人を見つけることで貢献ができるのです。また、掲示板に「@aglanceを使用して教室でこんな使い方ができたよ」と紹介することだって、立派な貢献です。自分の長所や得意分野を生かし、どんな貢献ができるか考え、行動していくことが大切ではないかと私は考えています。

8月末の総会で、私も引き続き「理事」として働かせていただくことになりました。及ばずながら出来る限りのことをしていきたいと思っています。世界に、日本に発信していくe-dream-sはその名の通り夢が一杯で、面白そうです。今後共、どうかよろしく願います。

## イー・ドリームズ第3期の理事に再任されて

(理事) 飯田佐恵

私はイー・ドリームズの立ち上げから参加して第1期から理事を務めさせてもらっています。そしていつも、いつも「私たちは何をしたいのか」、「私たちは何ができるのか」、それに関わる「資金調達の問題」について問いかけられて悩まされてきました。でも、最近は次にすることが未定で「未知」であるところにイー・ドリームズの魅力があるのだと思うようになりました。みなさんと話し合っただけに続けていくもの、新しいものを事業として組んでいく苦労と楽しみがあるのだと思っています。

2005年度には10,000枚の写真大収集アーカイブ事業の今後の扱いかたについて、に'ECAP2006'から教育改革提言事業や教育パートナーシップ事業へと発展させていく新しい活動について考えてはどうでしょうか。

## 理事に就任して

藤澤 俊之

もう一期、e-dream-s 理事をさせていただくことになった。

現在、e-dream-s で、主に取り組んでいる事業は、主に2つ。教育用写真サイトと、ECAP 等における海外交流事業である。写真サイトには、私の写真をたくさん掲載してもらっているし、ECAP についても実行委員を時々勤めさせていただいている。だが、果たして、「新規事業を考えてみては。」と言われると、これがなかなかでてこない。。

とにかく、今後とも少しでも役に立つことがあれば、がんばっていきたいと思っています。

よろしくお願いいたします。

## 理事就任にあたって

塚本美紀

e-dream-s の活動を通じて、「私にもこんなことができるんだ！」という新しい自分の一面や、「これからはこんなことができるようになりたい！」あるいは、「こんなことをやってみたいなあ。」という今まで考えたこともなかった目標を発見したりしました。また、ECAP を初め、さまざまなプロジェクトに参加する中で多くの人々に出会い、「こんな面白い人もいるんだなあ。」という発見もたくさんありました。そして一番の発見は、e-dream-s の中には面白いことがたくさんある、あるいは、面白いことがたくさん生まれてくる、ということです。これからも、皆様と e-dream-s の活動を行う中で、たくさんの発見をしていきたいと思えます。

辻岡尚子

今年の6月から12月まで出張で英国研修にきています。

日本にいる間は英国のことをあまり知らなかったのですが、住んでみると、ことのほかなじむのが早い自分に驚いています。もともと観光などには興味が全くなく、町の市場やレストランや広場や水辺にいるのが好きで、なじんだ感じがするまでひとところにいたい性分です。こちらにきてほぼ三ヶ月、ケントのフォルクストン、ドーバー、カンタベリーなどイギリス南東部やロンドン、ノッティンガムになじんできました。

日本ではカメラを手にしたことがなかったのですが、こちらに来るので、初めて自分のカメラを買いました。生活していないとなかなか見ることでできないものを撮ってアーカイブに貢献しようと思っていますが、写真が下手で、なかなかいい写真がとれません。日本に帰るまで、こちらで多くを学び糧にし、帰国後に e-dream-s に学んだことを使って貢献できればと思っています。

岡田かおる

引き続き理事をすることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

この2年間は理事であるにもかかわらず、理事会では他の理事の方の話を聞くだけ、e-dream-s の現状を把握するだけで精一杯という状態でした。でも、大阪、

広島、京都と何度か足を運ぶ中で、東京から出て行くことが苦でなくなり、他の会員と顔を合わせることが楽しみと思えるようになりました。e-dream-sの活動では、学校の中だけに閉じこもってはいは出会えない人と出会い、そうしていたら決して考えないことを考えます。私たち e-dream-s がこれから何をしていくのか、理事のひとりとして、広く社会に目を向け、アンテナを張って、考え行動していきたいと思えます。

e-dreams 総会・パーティに参加して

田村尚美

8月27日ディクテイタチェックのため大阪に行き、その後の総会・パーティにも参加しました。ここで大阪支部の方達と話をする機会がたくさんあり、大変たのしいひとときでした。特に冬合宿で苦しみ(！?)をともしした初級メンバーと再会できたことは嬉しいことでした。この夏までに数人のメンバーはチェックにパスして、中級へと進んだことを羨ましくもありますが、祝福の気持ちでいっぱいです。私も負けずこれから頑張っていきたいと思えます。また来年の1月に再びお会いするのを楽しみにしています。

#### 《 報告 》

8月27日、たかつガーデン(大阪市)において、第20回理事会、第6回定時会員総会が開かれました。

< 報告：第20回理事会 >

以下の案件について報告・議論を行いました。

- (1)2005 事業年度・テーマ及び事業方針の件
- (2)2005 事業年度・予算の件
- (3)役員選任の件
- (4)「ECAP 2005 日韓英語教育フォーラム」実施報告

< 報告：第 6 回定時会員総会 >

以下の案件について、報告・論議を行いました。

(1)第 1 号議案：2004 年度（2004 年 6 月 1 日から 2005 年 5 月 31 日まで）事業報告承認の件：

(a)@aglance

(b)「ECAP 2004 韓国」

(c)「A Rainbow over the Strait」状況・ECAP 広報

(d)「ACROSS アジアツアー2004；DISCOVER 極東ロシア」

(e) インドツアー（調査事業）

(f)「ECAP 2005」実施報告

(g)e-dream-s ホームページ

(h)e-dream-s 通信

(i)小口債券

(j)協賛金

(k)ワインプロジェクト

(2)第 2 号議案：2004 年度収支決算承認の件、並びに監査報告

(3)第 3 号議案：役員選任の件（任期：2005 年 9 月 1 日から 2007 年 8 月 31 日）

(4)報告事項 1：2005 年度（2005 年 6 月 1 日から 2006 年 5 月 31 日まで）事業方針、並びに収支予算について

(5)報告事項 2:「ECAP 2005 日韓英語教育フォーラム～語ろう！東アジアにおける英語教育の未来～」実施報告

\* 第 1 号議案、第 2 号議案、第 3 号議案ともに可決されました。

\* 総会・パーティの様子は、e-dream-s のホームページでもご覧いただけます。

→ <http://www.e-dream-s.org/directorate20.html>

< 今期の役員 >（任期：2007 年 8 月 31 日まで）

代表理事：辻 莊一（再任）

副代表理事：中川 房代（再任）

理事：山田 昌子（再任）

飯田 佐恵（再任）

灰田 穰（再任）

辻岡 尚子（再任）

田辺 恵美（再任）

塚本 美紀（再任）



藤澤 俊之（再任）

岡田かおる（再任）

監 事 : 矢神 尚久（再任）

< 任期満了に伴い、退任された役員 >

山本 貴子理事（在任期間：設立～2005年8月31日）

阿部 武司理事（在任期間：2000年9月1日～2005年8月31日）

小関 静枝理事（在任期間：2003年9月1日～2005年8月31日）

ご活躍いただき、ありがとうございました。おつかれさまでした。

#### 編集後記

ECAP2005 の報告や、再任された理事の方々からたくさんの原稿をいただきました。うん、そうだよなあ、と共感したり、こんな視点もあるのか、と新鮮な気持ちにさせられたりします。通信が会員同士の理解を深める一助となることを願っています。（岡田かおる）